

上鼓室・乳突腔病巣処理を伴う鼓室形成術の 術式名称について (2020)

日本耳科学会用語委員会

山本 裕, 伊藤 真人, 佐藤 宏昭, 林 達哉,
日高 浩史, 平海 晴一, 森田 由香, 東野 哲也

耳科用語国際研究ワーキンググループ

伊藤 吏, 我那覇 章, 小森 学, 杉本 寿史,
平賀 良彦, 美内 慎也, 山田 啓之

本邦における耳科手術の術式分類についての提唱は、1973年のオトマイクロサージェリー研修会による「中耳炎とその後遺症に対する手術法の分類と名称」、それを基に作成された1983年の旧臨床耳科学会手術用語委員会による報告に遡る。さらに本委員会がそれを引き継ぐ形で、「慢性中耳炎に対する鼓室形成術 Tympanoplasty の術式・アプローチの名称について (2000年)」、「上鼓室・乳突腔病巣処理を伴う鼓室形成術の術式名称について (2010)」（2010年提案）を本邦における耳科手術の変遷を踏まえながら提唱してきた。2010年提案では、外耳道後壁削除型手術の際に乳突削開腔を外耳道に開放しない様々な術式の普及に伴い、「外耳道後壁削除鼓室形成術」を「外耳道後壁削除・乳突開放型」と「外耳道後壁削除・乳突非開放型」に区別することを提案した。この案は現在耳科手術に関する様々な議論を展開する上での統一基準として、本邦で広く受け入れられている。

近年、耳科手術の手技はますます多様化し、様々な付帯手技が組み合わされて鼓室形成術が構成されている。そのため特に鼓室の各部位への経外耳道的、もしくは経乳突的なアプローチによる付帯手技に対する適切な用語の追加整備が求められている。また耳科手術についての国際分類の整備もすすめられており、2018年には「International Otology Outcome Group and the International Consensus on the Categorization of Tympanomastoid Surgery」(IOOG分類)が初めての国際的な術式の統一規格として提唱され (J Int Adv Otol 2018; 14: 216-226)、日本耳科学会もこれを承認した。

そこでは多様な手術手技を包括する形で中耳手術の分類が行われている。

このような背景を考慮し、「上鼓室・乳突腔病巣処理を伴う鼓室形成術の術式名称について (2020)」を提唱する。今回の改定では、基本的な構成では2010年提案を踏襲しながら、付帯手技の定義付けの充実を図ることを主眼に置いた。また同時にIOOG分類などの国際分類への互換性を担保しつつ、鼓室形成術に関連する種々の耳科手術手技への準用にも役立てていただくことを目的とした。なお本提案は2020年11月開催の第30回日本耳科学会総会・学術講演会において公開し、会員からの意見聴取を経た後に完成されたことを付記する。

1. 乳突非削開鼓室形成術 (tympanoplasty without mastoidectomy)

乳突洞を開放しない術式。但しコントロールホールによる乳突洞の観察のみの場合や経外耳道的上鼓室開放術 (transcanal atticotomy; TCA) (付帯手技1)により上鼓室のみを開放したものはここに分類される。

2. 乳突削開鼓室形成術 (tympanoplasty with mastoidectomy)

経(骨皮質)乳突的または経外耳道的に乳突洞が開放される術式。外耳道後壁の骨および皮膚の処理方法の組み合わせにより下記の3つに大別される。

A) 外耳道後壁保存型鼓室形成術

外耳道後壁保存乳突削開術 (canal wall up mastoidectomy)、すなわち外耳道後壁の骨、皮膚ともに保存した

まま乳突腔を開放する術式. 経外耳道的上鼓室開放術を併用した場合は, 付帯手技 1) を明記する.

B) 外耳道後壁削除・乳突非開放型鼓室形成術

経乳突的もしくは経外耳道的に外耳道後壁を削除し乳突腔を削開する外耳道後壁削除・乳突削開術 (canal wall down mastoidectomy) を行った後, 乳突腔を外耳道に開放しない術式. 外耳道後壁皮膚を温存するだけのものから積極的に外耳道後壁を再建するものまで多彩な手技が含まれる.

C) 外耳道後壁削除・乳突開放型鼓室形成術

外耳道後壁削除乳突削開術 (canal wall down mastoidectomy) 後の乳突腔を外耳道に開放する術式.

※経外耳道的上鼓室・乳突洞開放術 (transcanal atticotomy; TCAA) は外耳道後壁削除に含まれる.

※経外耳道的上鼓室開放術と経外耳道的上鼓室・乳突洞開放術の区別については, 削開範囲がキヌタ骨短脚, もしくはキヌタ骨窩後端を超えるかどうかで判断する.

3. 併記すべき事項

(1) 付帯手技

1) 経外耳道的上鼓室開放 (transcanal atticotomy)

経外耳道的に上鼓室を広く開放する手技.

2) 骨部外耳道後方拡大

経外耳道的に骨部外耳道後方や鼓膜溝 (tympanic sulcus) を削開し, アブミ骨周辺や鼓室洞の術野を確保する手技. 削開をさらに進めて下鼓室への術野を確保すれば経外耳道的下鼓室開放となる.

また, 鼓膜への術野確保の目的で骨部外耳道を拡大する操作は外耳道拡大術として区別する.

3) 後鼓室開放 (posterior tympanotomy)

外耳道後壁保存型鼓室形成術において, 経乳突的に顔面神経窩を開放する手技.

4) 前鼓室開放 (anterior tympanotomy)

上鼓室前方の骨性および膜性隔壁を削除し, 上鼓室と耳管上陥凹や耳管との解剖学的疎通性を確保する手技.

5) 上鼓室側壁再建 (scutumplasty)

手術もしくは病変により欠損した上鼓室側壁を再建する手技. 「上鼓室側壁再建 (軟骨)」などで表現する.

6) 外耳道後壁再建 (canal wall reconstruction)

手術もしくは病変により欠損した外耳道後壁を再建す

る手技. 「後壁再建 (骨パテ)」, 「後壁再建 (軟素材)」などで表現する.

7) 乳突腔充填 (mastoid obliteration)

削開した (されている) 乳突腔を充填する手技. 外耳道後壁が残存しているか否かは問題としない. 但し乳突尖端部などを部分的に充填し, 開放乳突腔を縮小する目的で行なわれる場合は乳突腔部分充填とする. 「乳突腔充填 (骨片)」などで表現する.

8) 外耳道入口部拡大 (meatoplasty)

外耳道後壁削除・乳突開放型鼓室形成術などにおいて, 外耳道から乳突腔への良好なアクセスを術後に確保するために, 軟骨部外耳道を拡大する手技.

(2) 複数回手術の分類

2010年提案では「段階的鼓室形成術」, 「再手術」, 「修正手術」, 「点検手術」の4種に分類されていた. ここでは「段階的鼓室形成術」が, 第一次手術の際に耳小骨連鎖再建を行わないものと定義されたため, 第一次手術で再建を行った場合の第2次手術に対する名称などで混乱が生じた. そこで, 耳小骨連鎖再建の有無に限らず, 計画的に第2次手術を行う場合を「計画的再手術」として, 計画外の再手術と区別することにした.

〔初回手術〕

その症例に行われる初めての手術. 計画的段階手術の初回手術もここに含まれるが, 必要に応じて「初回手術 (段階手術)」などの表現で補足する.

〔計画的再手術〕

初回手術時に計画された再手術. 耳小骨連鎖再建, 遺残真珠腫の処理などが計画された段階的鼓室形成術の第2次手術や, 計画された修正手術や点検手術もすべてこの範疇に含めるが, 必要に応じて「計画的再手術 (段階手術)」, 「計画的再手術 (修正手術)」, 「計画的再手術 (点検手術)」などの表現で補足する. また再手術が複数回にわたる場合は回数を付記するなど補足する.

〔計画外再手術〕

手術不成功例あるいは再発例に初回手術とは独立して行なわれる計画されていなかった手術.

※再手術時における各種手技の記載に際しては, 前回手術で行われたものなのか, 再手術時になされたものなのかかわかるように注記することが望ましい.